

庁 議 等 付 議 事 案 調 書

開催日 令和3年5月12日

局部名 総合政策局

- I 会議名 庁 議 政策会議
- II 付議事案名 (仮称) 千葉県スマートシティ推進ビジョン及び取組項目の原案の決定について
- III 付議目的 方針決定 協議 報告 その他 ()

1 決定事項 (協議事項 報告事項)

令和4年3月の策定に向けて、(仮称)千葉県スマートシティ推進ビジョン及び取組項目の原案を附属機関で審議するため、別紙のとおり決定する。

2 庁議 (政策会議) に付議する理由・背景

(1) 理由

(仮称) スマートシティ推進ビジョン及び取組項目の原案を、千葉市新基本計画審議会スマートシティ部会 (附属機関) で審議するため。

(2) 背景

ア 推進ビジョンの策定時期

令和4年3月 (予定)

イ 策定スケジュール

5月31日	【審議会】第1回スマートシティ部会（原案審議）
6月	【審議会】第2回スマートシティ部会（原案審議）
7月	【審議会】第3回スマートシティ部会（原案審議）
8月	【審議会】親会（答申）
11月	案作成、庁内検討会、庁議（案協議）
12月～	市民・事業者意見聴取、パブリックコメント手続
3月	ビジョン策定・公表

※審議会・・・千葉市新基本計画審議会

3 方針決定（協議）後の課題・リスク

- (1) ビジョン原案については、今後実施する附属機関での議論や意見等を踏まえて、案として仕上げる予定である。その過程において、全体的に記載内容の修正が発生する可能性はあるが、11月の庁議にて改めて案を付議した上で、パブリックコメント手続等に進む予定である。
- (2) 取組項目については、引き続き関係部局との調整を進め、11月の庁議まで順次取組を追加する。

4 関係部局・市長・副市長との調整状況

- (1) 関係部局との調整状況 令和3年4月 全庁への意見照会
- (2) 市長への説明状況 令和3年4月23日 市長に説明済
- (3) 副市長への説明状況 令和3年4月22日 両副市長に説明済

5 市長マニフェスト等との関連

- ・ 市長マニフェストへの記載 有 ・ 無

(該当項目：都市の基盤整備と先端技術を活かした未来都市の実現をめざします。)

- ・ 第3次実施計画での位置づけ 有 ・ 無

6 対外公表の時期・方法

(1) 記者発表

無 (本付議事項に伴う記者発表は実施しない)

※ビジョン策定・公表時に記者発表を実施 (令和4年3月予定)

(2) 会議資料及び議事録の公表

ビジョン及び取組項目の原案は、5月31日に実施する第1回スマートシティ部会の配布資料になることから、千葉市附属機関の会議の公開に関する要綱に基づき、部会終了後に速やかに千葉市ホームページへ掲載する。また、議事録は部会長承認後、速やかに千葉市ホームページへ掲載する。

7 添付資料

別紙1：(仮称) スマートシティ推進ビジョン原案

別紙2：(仮称) スマートシティ推進ビジョンの実現に向けた取組項目

(仮称) 千葉市スマートシティ推進ビジョン
～地域と共に創るスマートシティ～
【原案】

令和3年5月
千 葉 市

1	策定趣旨	…2
2	位置付け・期間	…3
3	策定の背景	…4
	(1) 本市を取り巻く重要な社会変化	
	(2) これまでの主な取組み	
	(3) テクノロジーの進展	
	(4) 国の動向	
4	基本的な考え方	…11
	(1) 千葉市が目指すスマートシティ	
	(2) スマートシティ実現のための原則と重視する視点	
5	取組みの方向性～5つのスマート！～ 〔暮らし・働き方・学び・まち・市役所〕	…16
6	推進体制・推進手法	…22
7	ロードマップ	…25

本市は、将来予想される重要な社会変化に対し、持続可能なまちづくりを進めるため、急速に進展するテクノロジーと、これまで培ってきたICT活用に関するコミュニティやノウハウを最大限に活かし、地域とともに「スマートシティ」の実現を目指します。

①本市を取り巻く重要な社会変化

- ✓ 人口減少・少子高齢化の進展
- ✓ 地球温暖化による気候変動
- ✓ 大地震の発生による被災リスク
- ✓ 新型コロナウイルス等感染症拡大リスク
- ✓ 公共インフラの老朽化

②これまでの取組みによる成果

- ✓ 多様な主体との連携
- ✓ テクノロジー活用に関連するノウハウの蓄積やコミュニティの構築

③テクノロジーの進展

- ✓ IoT・センシング技術
- ✓ 分析・予測技術
- ✓ 通信・ネットワーク技術
- ✓ 自動制御技術

④国の動向

- ✓ Society5.0の提唱
- ✓ デジタル・ガバメントの推進

さらなる飛躍・発展を遂げるための好機が到来

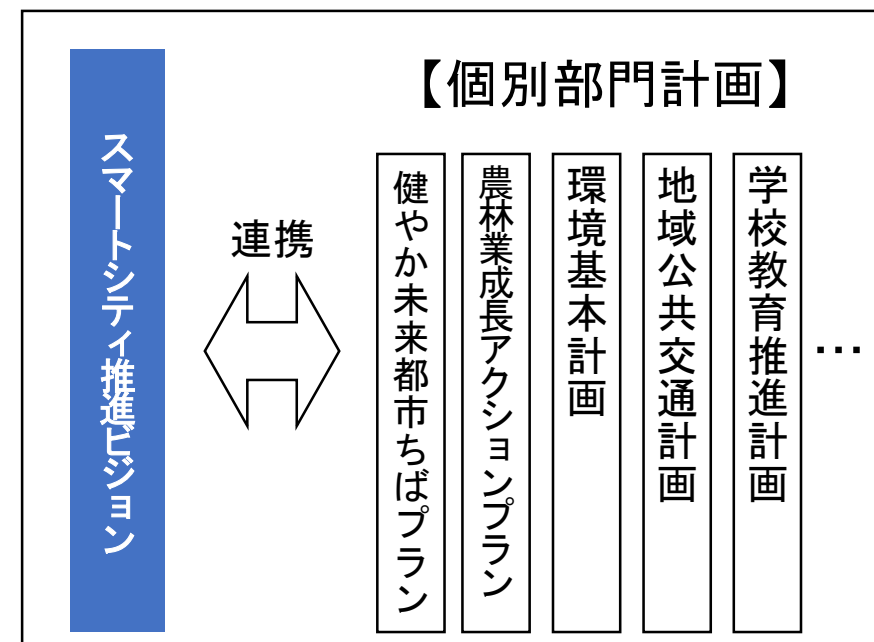
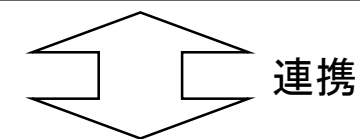
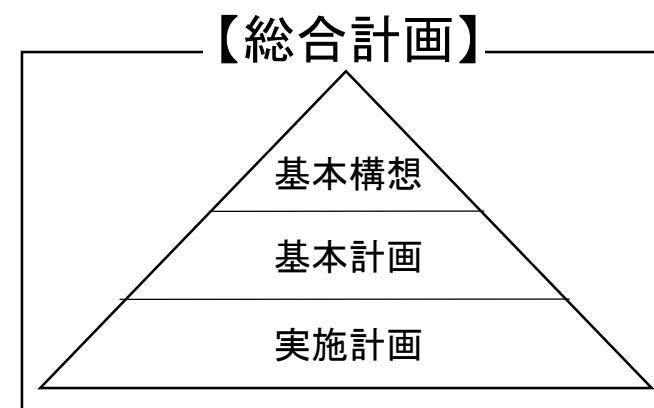
テクノロジーの活用などにより市域全体の生活の質の向上を図り、地域とともに持続可能なまちづくりを進めるため、目指すスマートシティの姿や取組みの方向性をステークホルダーと共有する「(仮称)スマートシティ推進ビジョン」を策定

【位置付け】

総合計画におけるまちづくりを推進し、スマートシティを実現するため各個別部門計画と整合を取りつつ、分野横断的な指針として策定

【期間】

20年後を見据えての10年程度を対象
※国の政策の方針や先端技術等の動向を踏まえ、5年程度を目安に見直す。



(1) 本市を取り巻く重要な社会変化

人口減少・少子高齢化など、今後本市が直面することとなる重要な社会変化について整理します。これら社会変化の到来に備え、柔軟かつ持続可能なまちづくりが求められます。

○ 人口減少・少子高齢化

現状	今後直面する社会変化
<ul style="list-style-type: none">・ 東京から50km圏は人口増減の境界線、本市は人口増加地域の波打ち際・ 出生者が死亡者を下回る「自然減」の状態・ 市以東、以南地域の人口は既に減少・ 2020年をピークに人口減少に転じる見込み（平成27年国勢調査を基準とした将来推計）・ 合計特殊出生率は2016年度から低下し、2020年度は1.26	<ul style="list-style-type: none">・ 高齢化率は2055年に約4割まで上昇見込み・ 高齢者の増加に伴う社会保障費の増大・ 生産年齢人口の減少に伴う税収減

○ 地球温暖化による気候変動

現状	今後直面する社会変化
<ul style="list-style-type: none">・ 気温の長期的な上昇傾向（記録的猛暑の発生）・ 氷河、氷床の融解による海面水位の上昇・ 令和元年の台風や大雨により、電力・通信の断絶が生じるなど市民生活に甚大な被害が発生。その経験を教訓として、「災害に強いまちづくり政策パッケージ」を策定	<ul style="list-style-type: none">・ 猛暑や大雨・洪水被害等、自然災害の深刻化・頻発化・ 気温や海水温・海面水位のさらなる上昇・ 生態系の変化（環境に適応できない生物の絶滅）

○ 大地震の発生による被災リスク

現状	今後直面する社会変化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災では、液状化現象により、家屋や公共施設等に甚大な被害が発生するだけでなく、通信網や交通網の混乱により、多数の帰宅困難者が発生 ・ 東日本大震災や熊本地震、千葉市地震被害想定 of 調査結果等に基づき、地域防災計画を修正 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府は、今後30年以内に、震度6弱以上の激しい揺れに見舞われる確率を62%と予測 ・ 首都中枢機能への影響や、火災や帰宅困難者などによる膨大な被災者の発生

○ 新型コロナウイルス等の感染症リスク

現状	今後直面する社会変化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルスの影響 <ul style="list-style-type: none"> → 感染症患者が多数発生 → 緊急事態宣言の発出等により、社会経済活動が停滞 → 市民・企業とともに社会を変えるチャンスととらえ、「ちばしチェンジ宣言！」を発出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポストコロナ社会の到来 ・ デジタル化の急速な進展。経済活動、社会活動におけるサイバー空間の活用の加速 ・ 有効な解決策を持たない新たな感染症が流行し、再び社会経済活動の停滞や市民生活が制限されるおそれ

○ 公共インフラの老朽化

現状	今後直面する社会変化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設・道路・市営住宅等の公共インフラの老朽化が進展 ・ 長寿命化計画の策定。計画に基づく維持管理の実施 ・ 安全点検等の保全業務を行う技術者の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ インフラの老朽化が一層進行し、更新時期を迎えるインフラが多数発生 ・ インフラの更新に莫大な費用が発生 ・ 安全点検等の保全業務を行う技術者不足の深刻化

(2) これまでの主な取組

本市では、これまでも市民に時間を返す市民サービスや、官民協働の推進、産官学の連携による国家戦略特区制度を活用した実証等、テクノロジーを活用した取組みを積極的に推進しています。

○ 「時間を返す」市民サービスの実現

区役所窓口の混雑状況の配信



スマートフォンの表示例

プッシュ通知の流れ

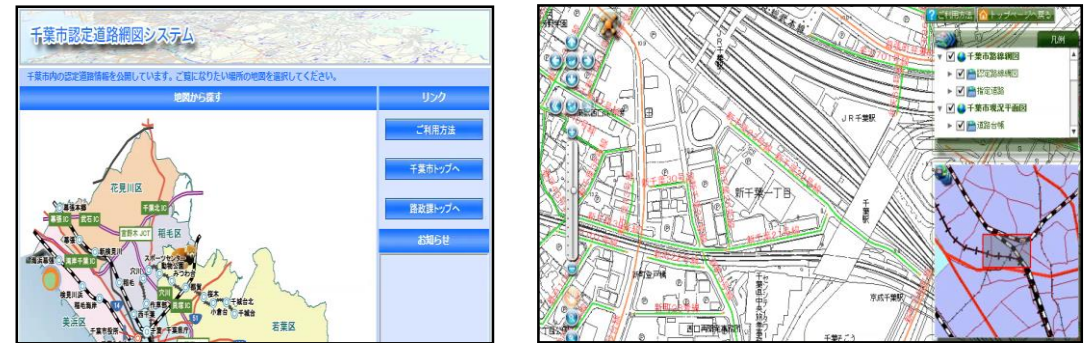
【取組内容】

- ・ パソコンやスマートフォンから、区役所窓口（市民総合窓口課）の待ち人数や時間、呼び出し中の番号をリアルタイムで表示
- ・ 窓口の呼び出し順が近づいたらプッシュ通知

【取組の趣旨】

- ・ 市役所への滞在時間の最小化
- ・ 来庁者の分散化による混雑回避

地図情報のインターネット公開



【取組内容】

- ・ 本市が管理する道路等の認定道路網図をはじめ、都市計画情報、建築基準法指定道路図、下水道施設平面図等の情報を、インターネットで提供。

【取組の趣旨】

- ・ いつでもどこでも誰でも地図情報が閲覧可能になることによる市民サービスの向上。
- ・ 職員の窓口業務の負担軽減

○市民全員参加のまちづくり

市民協働プラットフォーム「ちばレポ」の運用



スマートフォンの表示イメージ



ちばレポの流れ

【取組内容】

- ・市民からレポートされる地域の課題（道路や公園の損傷等）をWEB上で可視化・共有化し、市民協働により解決可能な課題は市民の力で解決を目指すサービスを提供。

【取組の趣旨】

- ・まちづくりへの協働意識の高まり
- ・いつでもどこでも誰でも行政・市民と共有可能
- ・行政の業務処理の効率化

ちばシティポイント

ボランティア 関連活動



健康維持・ 増進活動



市の推進する 施策等



ちばシティポイントの対象事業（令和3年5月現在）

【取組内容】

- ・ボランティア関連活動や健康維持・増進活動等に参加することでポイントを付与。
- ・貯めたポイントで特典品の交換やNPO法人への寄付等が可能

【取組の趣旨】

- ・市民等の対象活動への参加意欲の向上
- ・地域コミュニティの活性化

○国家戦略特区制度を活用した実証

自動運転・パーソナルモビリティの走行実証



次世代モビリティの一例

【取組内容】自動運転バスやパーソナルモビリティ等の公道実証等
 【取組の趣旨】都市の回遊性の向上、ラストワンマイルの課題解決等

ドローン宅配実証



【取組内容】東京湾臨海部の物流倉庫から幕張新都心まで東京湾上空を飛行し、若葉住宅地区のマンションに宅配（千葉市ドローン宅配構想）
 【取組の趣旨】配達時間の短縮等による利便性向上、物流に係る人手不足の解消等

シェアリングエコノミーの活用推進



【取組内容】イベントホームステイ、特技や趣味等の体験提供による観光まちづくりの推進に向けたサービス提供者の発掘・育成・実践機会創出
 【取組の趣旨】地域共助の促進

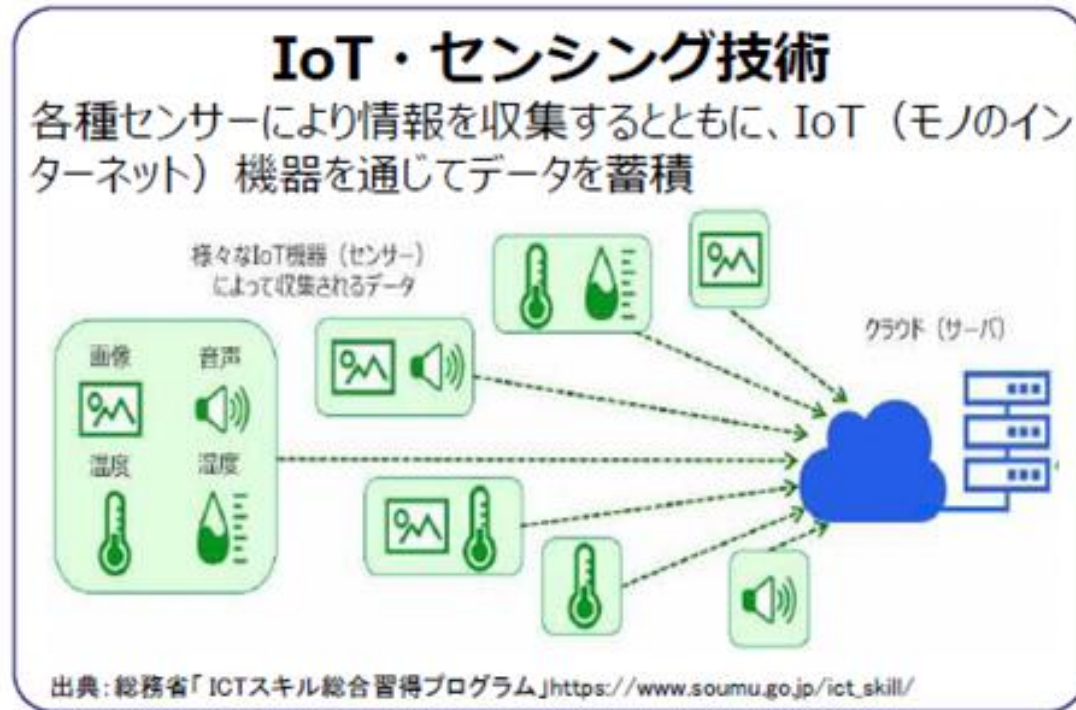
都市部におけるオンライン服薬指導



【取組内容】市内在住の患者にオンライン服薬指導を実施
 【取組の趣旨】生活の利便性向上、医療機関や薬局での待ち時間の解消

(3) テクノロジーの進展

近年、センサーにより収集した情報をIoT機器を通じて蓄積する「IoT・センシング技術」、自動車やロボット等を自動制御する「自動制御技術」、多種多量のデータを高速に転送する等の「通信・ネットワーク技術」、蓄積された膨大なデータを統合・AI等が分析・予測する「分析・予測技術」等のテクノロジーが急速に進展しています。これらのテクノロジーは持続可能なまちづくりを実現するためのツールとして有効です。



自動制御技術

自動車やロボットの自動制御に向けた取組の進展



自動運転

配送ロボット

出典：内閣府SIP「SIP CAFE」
<https://sip-cafe.media/>

(4) 国の動向

急速なテクノロジーの進展やシビックテック活動の活発化を背景に、先端技術等のテクノロジーをあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立する新たな社会の実現を目指しています。

本市はこれまでもテクノロジーを積極的に活用した市民サービスを提供しており、ノウハウやコミュニティを有していることから、新たな社会を実現しやすい環境にあります。

【Society5.0の提唱】

IoTによりサイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を連携し、すべての物や情報、人を一つにつなぐとともに、AI等の活用により量と質の全体最適をはかる社会として「Society5.0」を提唱

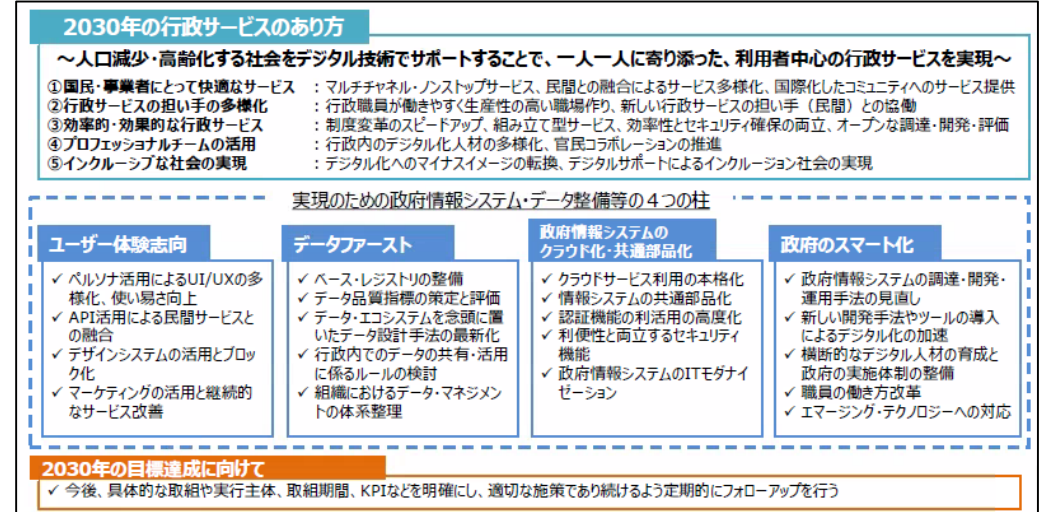
○ Society5.0で実現する社会



【デジタル・ガバメント実行計画】

Society5.0の実現に向け、デジタルファースト・ワンズオンリー・ワンストップを3原則に、行政サービスを100%デジタル化し、利用者中心のサービス提供を目指すための具体的な実行計画。

○ デジタル・ガバメント実現のためのグランドデザイン



(1) 千葉市が目指すスマートシティ

誰もが自然にテクノロジーを使えて、
大切な時間・空間・資源を賢く有効に利用でき、
安全・安心で便利・快適な生活を長く続けられるまち

ICTやAIなどのテクノロジーが、電気やガス・水道などのように特別に意識することなく生活の中であり、市民や企業などすべての方々がその恩恵を受けることにより、限りある社会資源を最適に利用することで、市民生活の質向上や企業の生産性向上などのメリットが感じられる、安全・安心・便利・快適で持続可能なまちづくりを目指します。

4 基本的な考え方②

千葉市の目指すべき姿を表現した
絵を記載する予定です。
※現在は国の絵を転載しています。

○スマートシティのイメージ



(2) スマートシティ実現のための原則と重視する視点

目指すスマートシティの実現に向け、重要かつ基本的な事項として「3つの原則」を、その上で留意すべき事項を「5つの視点」としてそれぞれ整理し、原則・視点に則った取組みを推進します。

3つの原則

①市民中心

- ・市民中心を最重要原則とし、市民に時間を返す取組みの推進や地域コミュニティの活性化など、市民目線に立ったまちづくりを実現
- ・利用者意見、対象となる課題、本市の地域特性等を踏まえ、すべての市民が利用しやすく最適なサービスを受けられるインクルーシブな環境整備やICTリテラシーの向上

②課題解決・価値創造

- ・地域課題を解決し、目指すべき姿を実現するためにテクノロジーを活用
- ・既存の取組みや枠組みに捉われることなくゼロベースで考え、国家戦略特区制度の活用や実証事業の積極的な受け入れ等、チャレンジ精神を持って取組む中からイノベーションを誘発し、テクノロジーを力に新たな価値を創造

③分野横断・全体最適

- ・より市民に効率的かつ便利なサービスを提供する観点から、複数サービスの組み合わせや様々な主体が保有するデータを活用した複合サービスなど、分野横断・全体最適の取組みを推進
- ・近隣自治体を巻き込んで解決を図るべき課題は、対象自治体の課題認識を確認しつつ、検討段階から連携して解決策を検討するなど、自治体横断での取組みを推進
- ・横断的な取組みや自治体間連携を容易に行うため、汎用性を意識したサービスを検討

5つの重視する視点

①多様な主体との連携

- ・ 大学・民間企業・関係団体・市民グループなど、多様なステークホルダー等との緊密な協力・連携を図り、各者が保有する豊富な知見を活かした取組みを推進
- ・ イノベーションによる新産業創出を視野に、様々な主体が保有するデータをみんなで活用（オープン化）

②自立性

- ・ 将来予測を踏まえつつ、経済的な持続性を考慮した仕組みを検討
- ・ サービス利用者の維持・拡大及びサービス提供者のモチベーションの維持・向上を図り、持続的にサービスが利用できる環境を構築
- ・ 市民、民間、行政のそれぞれがメリットを享受できる仕組みを意識（三方良し）

③個人情報の取り扱い

- ・ 利用用途等をわかりやすく明示するなど、実施サービスごとに取り扱いルールを定め、市民が安心して利用できるサービス

④情報セキュリティ

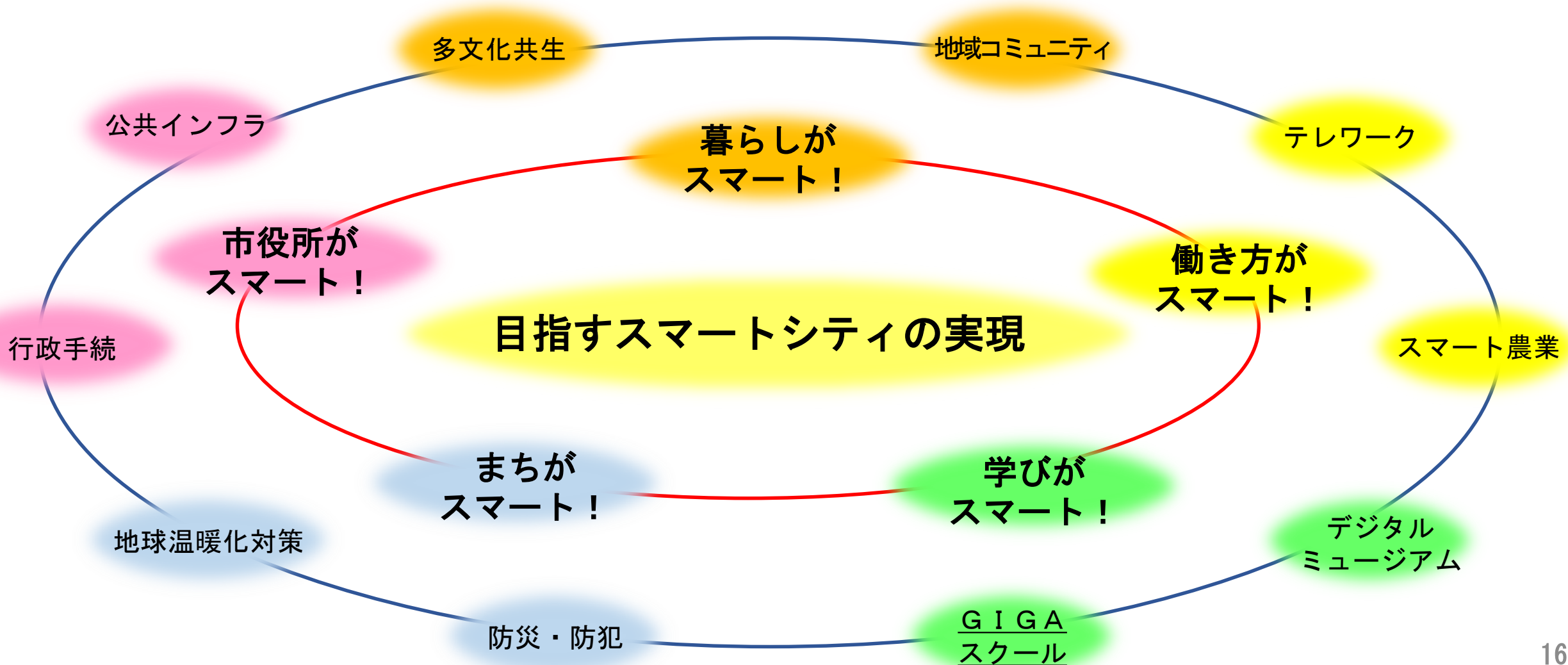
- ・ 今後さらなる巧妙化・複雑化が想定されるサイバー攻撃等に対応した強固な情報セキュリティ対策の実施
- ・ 提供者・利用者双方の情報セキュリティの確保

⑤データ活用

- ・ 複数のデータを組み合わせ、分析により得られた知見を活用し、課題解決・イノベーションによる新たな価値創造
- ・ 将来的な利活用を視野にデータを収集・取得する場合は、事前に対象者の同意を得てから実施するなど、適切なルールの下で管理・蓄積
- ・ データ活用により課題解決策を導くためのデータ活用人材の育成

5 取組みの方向性 ～5つのスマート！～

目指すスマートシティの市民（利用者）目線での実現に向けて、あらゆる分野を「暮らしがスマート！」「働き方がスマート！」「学びがスマート！」「まちがスマート！」「市役所がスマート！」の5つに分類し、様々な取組を分野横断的に順次実施していきます。



5 取組みの方向性(その1) 暮らしがスマート！

方向性	目指す姿
暮らしがスマート！	<ul style="list-style-type: none">・誰もが時間や場所等の制約のない、一人ひとりのライフスタイルにマッチしたサービスを利用できる。・あらゆる人が自由な時間に目的の場所まで移動でき、その後、用事を済ませて帰宅するまでの移動・予約・支払い等をスムーズに行うことができる。・全ての人が性別・国籍・障害の違いによらず、健康で自分らしい生活ができる。・誰もが意識することなくデジタルデバイスを活用してサービスを利用できる。・空間・物・スキル・移動・お金のニーズ・シーズが容易に結びつき、あらゆる資産を無駄なく運用できる。



【取組例】

取組項目	概要
多様な移動・交通サービスの提供	利用者目線による移動・交通サービスの最適化
デジタルによる多文化共生社会の構築	外国人が「住みたくなる」・「働きたくなる」・「訪れたい」なる環境整備
デジタルデバイドの解消	すべての市民がデジタル化の恩恵を享受できる環境構築

5 取組みの方向性(その2) 働き方がスマート！

方向性	目指す姿
働き方がスマート！	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが物理的な場所に固定されることなく任意の場所で仕事ができる。 ・全ての職場において、テクノロジー活用の推進役の下、テクノロジー活用による生産性向上や業務効率化を推進している。 ・定型業務や単純作業をはじめ、危険を伴う作業等はロボットが行うなど、テクノロジーを活用して負担軽減や業務効率化を図っている。 ・国籍や身体的な理由等を問わず、あらゆる人がやりたい仕事に就ける。



【取組例】

取組項目	概要
テレワーク環境の整備（企業・市役所）	企業・市役所職員がライフステージに合わせて多様で柔軟な働き方を選択可能なテレワーク環境を整備
デジタル活用人材の育成（企業・市役所）	企業・市役所におけるデジタルトランスフォーメーションの推進役となるデジタル活用スキルを有する人材の育成
スマート農業の推進	先端技術やデータを駆使した農業経営の支援及び農業経営者の維持・拡大
介護人材不足の解消	ロボットやセンサー、ICTの活用による介護職員等の業務支援

方向性	目指す姿
<p>学びがスマート！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先進技術を活用し、多様な児童生徒が個別最適化された学びを実現できる。 ・ 誰もが時間や場所の制約を受けず、講座やセミナー等を受講することができる。 ・ あらゆる人が図書館の蔵書や美術館の収蔵品等をオンラインで借りたり、鑑賞したりすることができる。 ・ 誰もがデジタルデバイスの使い方を学ぶことができ、サービスを受けるために必要な能力を養成できる。



【取組例】

取組項目	概要
個別最適化された学びの実現	ICT活用により誰一人取り残すことのない学びの実現
誰もが生涯にわたり学び続けられる環境づくり	いつでも、どこでも、誰もが必要なときに必要な学びが受けられる環境整備
電子図書館、デジタルミュージアムの構築	いつでもどこでも本の貸し出しや文化財の鑑賞が可能な環境整備
デジタルデバイドの解消（再掲）	すべての市民がデジタル化の恩恵を享受できる環境構築

5 取組みの方向性(その4) まちがスマート！

方向性	目指す姿
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">まちがスマート！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる生活場面に再生可能エネルギーが使用できており、かつ、消費エネルギーは最適化されている。 ・誰もが災害発生時に必要な情報を十分取得でき、円滑な避難行動・生活を送ることができるだけでなく、被害が最小化され、短期間で復旧・復興が可能なまちになっている。 ・年代・性別・時間帯を問わず、あらゆる人が安心して外出できる。 ・インフラや施設の状態を的確に把握し、異常や危険を自動検知することにより、安全対策が強化されている。



【取組例】

取組項目	概要
地球温暖化対策	再生可能エネルギーの活用、電力量の可視化による省エネ意識の向上
災害に強いまちづくり	バーチャル空間やAI活用による避難行動・災害対応の最適化
安全・安心なまちづくり	カメラやAI活用による犯罪・事故抑制、地域防犯力の向上
インフラ等の維持管理の効率化及び安全対策の強化	ドローン、センサー等の活用やAIによる分析・予測に基づく維持管理の効率化及び安全対策の強化

5 取組みの方向性(その5) 市役所がスマート！

方向性	目指す姿
<p>市役所がスマート！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民・企業・NPO法人・地域団体等が、行政とともに、積極的にデータを活用しながら、各主体の特性・強みを生かして、公共サービスを創出し、地域課題が解決されている。 ・ 自分に合った公共サービスがデジタル技術の活用により、適時に最適な形で示され、選択することができる。 ・ 市民がICTを活用して容易に市政に参画でき、生きがい・やりがいを感じている。



【取組例】

取組項目	概要
<p>市民・企業・NPO・市民団体等の多様な主体の参画促進</p>	<p>・ 参画機会の創出とその効果を高めるため、デジタル技術の活用や各主体が連携してデータを最大限活用できる仕組みづくりに取り組む。</p>
<p>データを積極的に活用して市民がより良い行動や判断ができる環境の整備</p>	<p>・ データの有効活用や市民のICTリテラシーの向上を図っていくほか、プッシュ型サービス・対話型サービスの実現に向け取り組む。</p>
<p>地域や市民に寄り添う職員の育成・組織風土づくり</p>	<p>・ 市民に寄り添い、前例に捉われずに柔軟に考えることができる組織風土づくりやICT環境の整備に取り組む、市民目線で課題解決できる職員を育成する。</p>

○全庁横断で推進

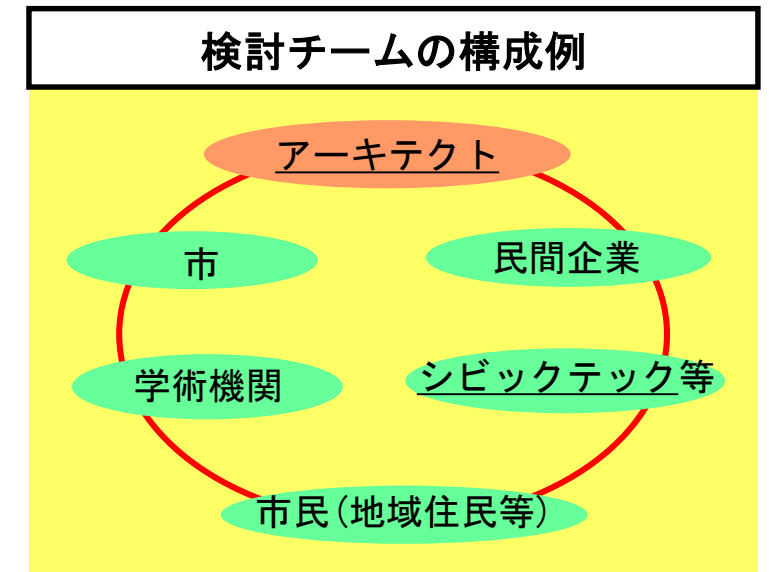
- ・スマートシティ推進に資する取組みは本ビジョンに基づいて推進し、次期基本計画における実施計画事業・個別計画事業に位置づけて進捗を管理

○産学官民での協力

- ・国内外のスマートシティの取組みに詳しい有識者に対して、必要に応じてアドバイスを受けられる環境を整備
- ・取組単位で、有識者や民間事業者、庁内関係課をはじめとするステークホルダーを巻き込んだ検討チームを必要に応じて設置
- ・検討チームの設置に当たり、実施取組ごとに最適なステークホルダーを選定するためのマッチングを実施
- ・推進状況等を踏まえ、必要に応じて、産学官民で構成する全市域を対象とした運営形態を検討

○シビックテックやエリアマネジメント団体等との連携・協働

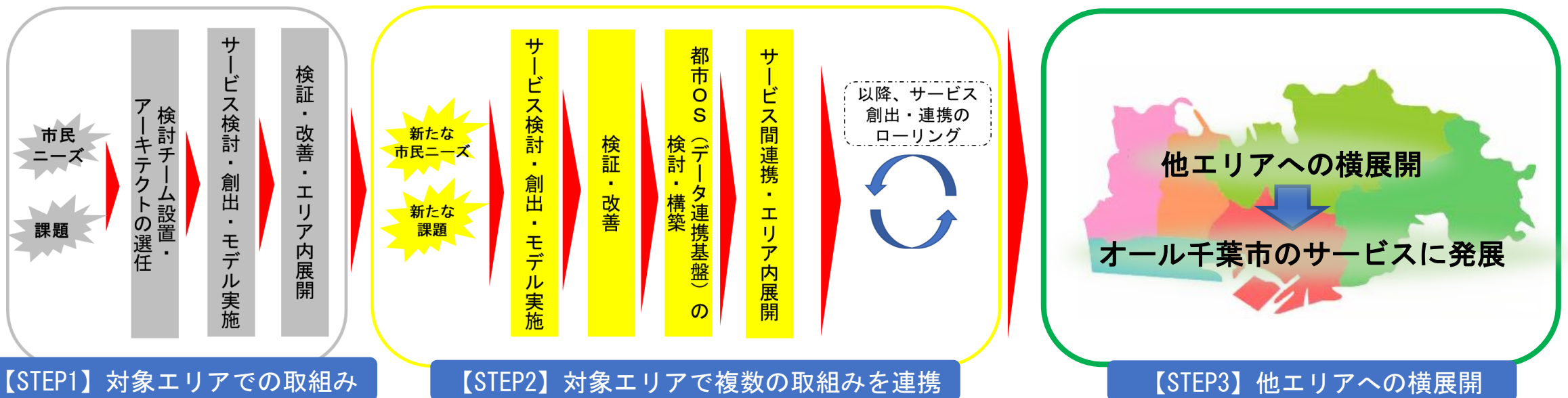
- ・サービスの持続性やより市民目線に立ったサービスを提供する観点から、地域課題に応じて、シビックテックや新たな役割を担うエリアマネジメント団体等と有機的に連携し、将来を見据えたサービスを検討・実施
- ・シビックテック団体等との連携により、稼働世代を始めとする幅広い年齢層の市民がプレイヤーとして参加し、ともにサービス内容を検討・構築・改善するなど、協働によるまちづくりを実施



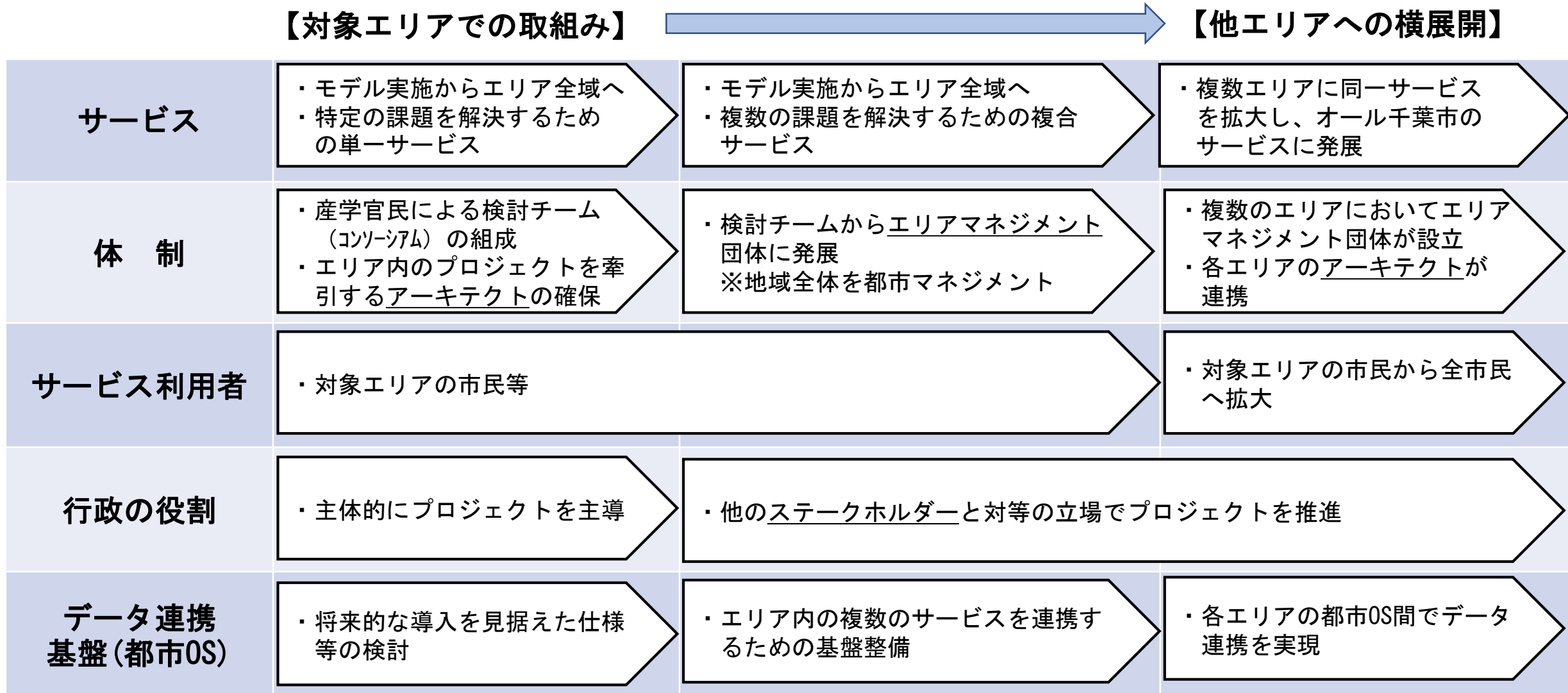
〇できることから着実に推進（スモールスタート）

- ・ エリアごとに住民等と目指すべき姿を共有しつつ、その実現に向けてモデル的な取組みから着実に実施（スモールスタート）。発現した問題に素早く対応し、推進力を維持したままエリア内に展開。
エリア内での複数の取組みがつながり、より良いサービスに進化するとともに、他エリアへの横展開によりオール千葉市のサービスに発展。
- ・ 中立的な立場でプロジェクトを牽引し、調整する人材（アーキテクト）をエリア単位で確保。
将来的に各エリアのアーキテクトがつながり、市全体を支えるチームに昇華
- ・ 推進組織・都市OSもスモールスタート

対象エリアにおける推進イメージ



対象エリアにおける推進イメージ（詳細）



	現状 (2022)	短期 (5年後)	中期 (10年後)	長期 (20年後)
テクノロジー活用	○分野ごとの課題解決策の検討・実施	○分野横断的な課題解決策の検討・実施	○ <u>エリアマネジメント</u> による課題解決策の検討・実施	○ <u>デジタルツイン</u> によるリアルタイム課題解決、将来課題予測の実現 〔IoTデータ集積(フィジカル) → AIデータ分析(サイバー) → 課題解決(フィジカル)〕 Society5.0の実現
テクノロジー実証	○先行エリアにおける実証(自動運転・ドローン等)	○先行エリアにおける実装 ○他エリアにおける実証・実装	○実装事例の横展開・全市展開	
データ連携	○サービスごとのデータ利活用 ○データ連携基盤(都市OS)の検討	○サービス間のデータ連携 ○官民データ利活用・連携 ○データ連携基盤(都市OS)の構築・連携		

(仮称)千葉市スマートシティ推進ビジョンの実現に向けた 取組項目

原則、毎年度1回更新し、項目の新規追加や最新化を行います。

取組みの方向性1 暮らしがスマート！

地域課題

移動・交通サービスの正確な情報発信（運行情報・利用実態など）

利用者目線による移動・交通サービスの最適化。

交通弱者をカバーする移動・交通サービス

地域特性・移動ニーズに応じた、地域住民の移動手段の確保。

目指す姿



取組内容

① 【公共交通の運行情報等の標準化・オープン化の推進】

② 【次世代モビリティサービスの社会実装に向けた検討】

ロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①			推進		
②			検討		

地域課題

- ①
 - ・外国人市民数の増加
 - ・多言語に対応できる人材の不足
 →
 - ・市HPの外国語ポータルページの内容が限定的
 - ・行政手続の多言語化・オンライン化が必要
- ②
 - ・災害時や非常時における通訳ボランティアの確保
 →
 - 災害時や非常時における外国人市民への支援の必要性の高まり

目指す姿

平時と災害時の多言語による情報発信をICTの活用により強化

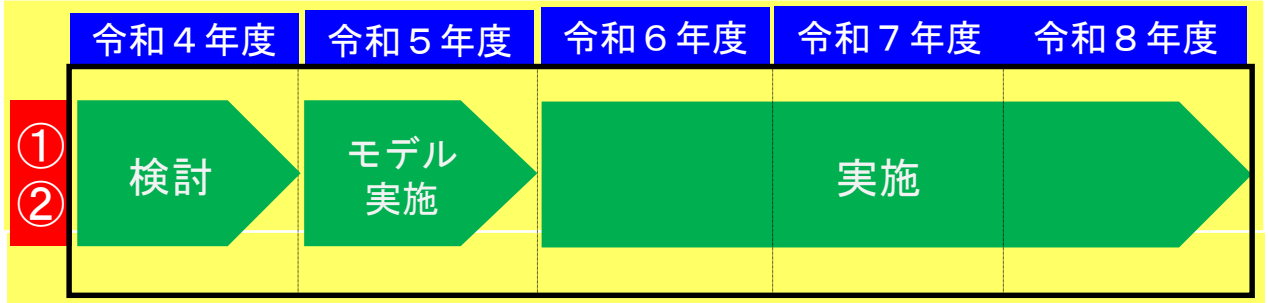
国籍を問わずすべての外国人が滞在しやすい、暮らしやすいまちに



取組内容

- ①
 - AI技術を活用し、市HPの多言語対応を行うとともに、外国人市民からの問合せに対しては、チャットボットや同時通訳などにより対応
 - 行政手続フォーマットの多言語化
- ②
 - デジタルサイネージを活用し、多人数・遠隔による通訳
 - オンライン講座等を開催し、災害時通訳ボランティアを育成
 - ビッグデータを用いて外国人の利用が多いエリアを時間や言語ごとに解析し、行政・生活情報の効果的な発信や災害ボランティア派遣に活用

ロードマップ

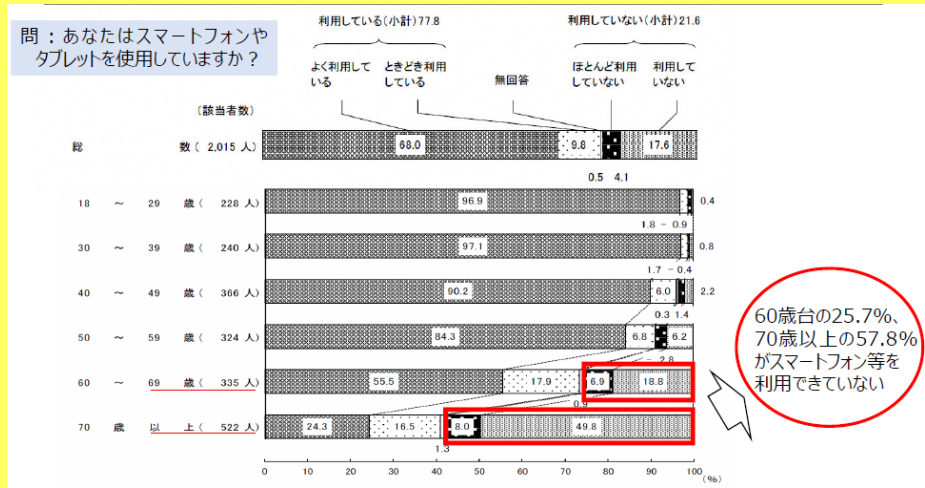


地域課題

年齢や障害の有無、
所得の違いにより、
ICTの利用状況に差



デジタル化の恩恵が
全ての人に行き渡らない



「情報通信機器の利活用に関する世論調査」

取組内容

- 高齢者や障害者を対象としたスマホ教室等の開催
- スマホなんでも相談窓口の設置
- 地域のスマホボランティアの養成
- 公共施設における低所得者向けインターネット利用環境の提供



http://s-challenged.jp/?page_id=5より

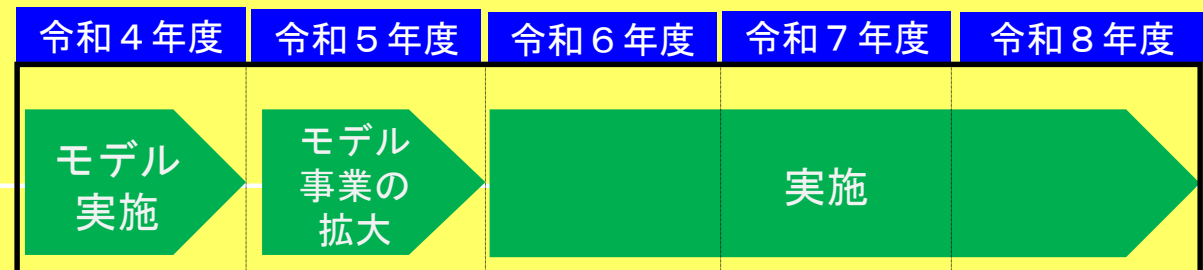
目指す姿

ICTを利用すること
への不安の解消

ICTを利用する機会
の提供

全ての市民がデジタル
化の恩恵を享受

ロードマップ



地域課題

- ・ 地域活動参加者の減少
- ・ 住民の高齢化



- ・ 活動の担い手不足
- ・ 団体役員の過度の負担
- ・ 住民間交流の減少



地域コミュニティの希薄化・弱体化

目指す姿

ICTにより、地域活動団体の事務負担を軽減

ICTを活用し、地域活動団体をより身近なものにし、参加者を増やす。

地域活動団体を持続可能なものに

取組内容

【町内自治会活動の推進】

- ① ICTによる地域活動の効率化
- ② 広報活動の充実を図るため、SNS等を活用した情報発信の支援
- ③ 町内自治会マップの電子化



【多様な主体の情報共有に向けた支援】

- ④ 地域で活動する団体同士の連携促進
- ⑤ 地域の未来予測（将来像の見える化）



ロードマップ

令和4年度

令和5年度

令和6年度

令和7年度

令和8年度

検討・実証・実施

地域課題

新型コロナウイルス感染症の流行による国際会議等の減少



新しい生活様式を踏まえた多様な開催形態に対応できる環境整備

MICE参加者による観光など市内周遊に乏しい



行動分析等によるエビデンスに基づく新たなコンテンツを造成

目指す姿

MICE開催を契機とした地域経済の活性化及び消費拡大



市内周遊に繋がる新たな観光コンテンツ造成



MICEの誘致による国内外からの来訪者やイベントの増加



取組内容

①

【多様な開催形態に対応するためのMICE施設への支援】
・オンサイト、オンラインと併用したハイブリッドMICE開催等、感染防止対策を踏まえた多様な開催形態に対応するためのMICE施設への支援

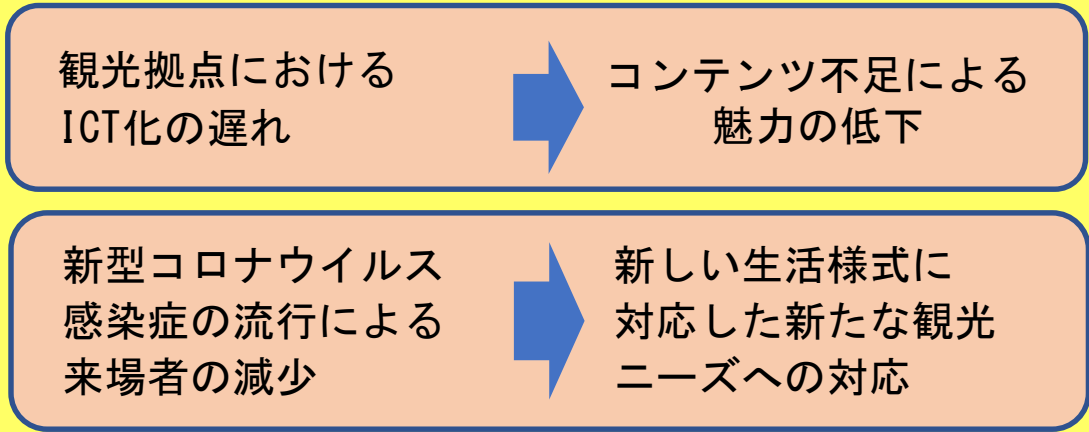
②

【市内周遊に繋げるコンテンツ造成】
・市内観光施設の来訪者の行動データの収集及び分析による観光マーケティングに基づき新たな観光コンテンツを造成

ロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①	支援				
②	分析・検討				実施

地域課題



目指す姿



取組内容

- ① 【観光資源等への来訪や周遊を促す仕組みの導入】
 - ・ドローン撮影による臨場感あふれる映像を活用した観光の疑似体験プログラムやプロモーションの実施
 - ・自動運転車の観光拠点間の送客や来訪者の属性等に応じてレコメンドするアプリケーションの提供等、来訪者の利便性向上に寄与するテクノロジーの活用支援。
- ② 【新しい生活様式に対応した観光需要への対応支援】
 - ・ARやVRの活用等、現地に行かずとも観光が楽しめるオンライン観光体験プランを提供する事業者を支援

ロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①	検討・実証・一部実施				導入支援
②	検討	実施			

取組みの方向性2 働き方がスマート！

地域課題

将来的な労働力人口の減少

災害時等の業務継続

あらゆる人材が活躍

多様で柔軟な
働き方の推進

職員のWLBの実現

目指す姿

テレワーク環境の整備

多様な勤務制度の充実・活用



すべての職員が
ライフステージ等に
応じた働き方ができる

取組内容

- ① 【在宅勤務の推進】
- ② 【サテライトオフィスの拡充】
- ③ 【多様な勤務時間制度の推進、人事評価制度の検討】
- ④ 【ペーパーレスに適した環境整備】
- ⑤ 【コミュニケーションツールの導入】

ロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①			推進		
②			拡充		
③			検討		
④			検討		
⑤			検討		

地域課題

①

高齢化の進行



介護サービスの
需要増加

②

生産年齢人口の減少



介護人材の不足

目指す姿

最新技術活用による
介護現場の負担軽減

学生らに広く
介護体験の場を提供

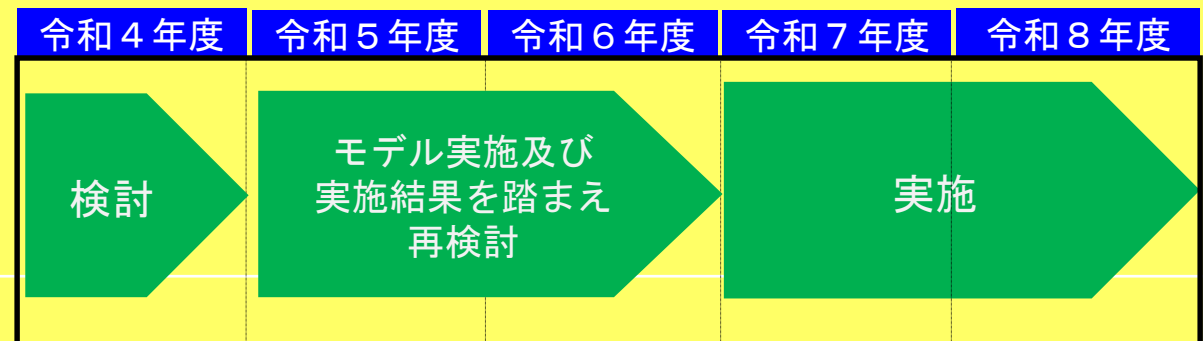
必要な介護サービスが
提供され、高齢者が
安心して暮らせるまち

取組内容

- 介護事業者と介護ロボット開発事業者が連携するなど最新型の介護ロボットを介護の現場で積極的に活用
- ICT活用によるペーパーレス化及び業務効率化の推進
- 学生等を対象としたVR活用による介護体験の提供



ロードマップ



地域課題

- ・新たな感染症リスクへの備えが必要
- ・あらゆる分野においてデジタル化が浸透・進展

将来の大きな社会変化に対しても
力強く成長する事業者を支援

目指す姿

時代の潮流に乗って
安定的・発展的にビジネス
を展開できるまちの実現

市内企業のDX推進

市内企業の
デジタル人材の育成



写真挿入
予定

取組内容

①

【市内企業のDX推進支援】

- ・市内企業の業務効率性・生産性の向上の観点から、AIやRPAの導入など、市内企業によるDXの取組みを支援

②

【市内企業のデジタル人材育成支援】

- ・市内企業のDX化を加速させるデジタル人材の育成を支援

ロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①	支援実施				
②	支援実施				

地域課題

農業経営者の減少
及び高齢化の進展



- ・ 青年農業経営者の育成・確保及び法人参入の促進
- ・ 農業現場の効率化・省力化の実現

直売所の売上増やフードテック企業の浸透等、消費行動の多様化に対応した多様な流通手段の実践が不足



- ・ 消費行動の多様化の進展に対応した農産物・加工品の流通手段の多様化

目指す姿

多様かつ意欲ある担い手の出現による活力ある農業の実現

先端技術を用いた、省力化・効率化された農業の実現

流通手段の多様化による市内産農畜産物の販売促進



取組内容

①

【農政センターの機能強化】

農政センターをスマート農業技術の実証フィールドとし、市内農業者が新たな技術に触れ、体験できる場としてリニューアル

②

【データを駆使した農業経営の支援】

農業データを総合的に見える化した経営サポートの実施

③

【スマート農業技術導入補助】

農業の生産性向上や省力化、高品質生産に繋がるスマート農業技術の導入支援の実施

④

【市内産農畜産物の流通の多様化】

ECサイトや食品流通に係るフードテック関連企業との連携、農業者と加工・飲食店等の事業者間の結び付け、流通事業者とのマッチング支援により、農業者の流通の多様化を支援

ロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①			実施		
②			実施		
③			実施		
④			個別マッチング等		

地域課題

- ・ 救急出動件数は救急業務開始以来、継続的に増加
※2055年頃をピークと予測。
- ・ 救命率の向上を図るため、救急隊の現場到着や病院収容までの時間短縮が必要。

ICT活用による救急業務を効率化

目指す姿

市民に迅速かつ質の高い
病院前救護サービスを提供

AIによる予測診断
結果を適切な搬送
先の選定に活用

ICT活用による受入れ先の
医療機関との迅速なマッチ
ング



取組内容

①

【救急情報システムの運用及び機能強化】

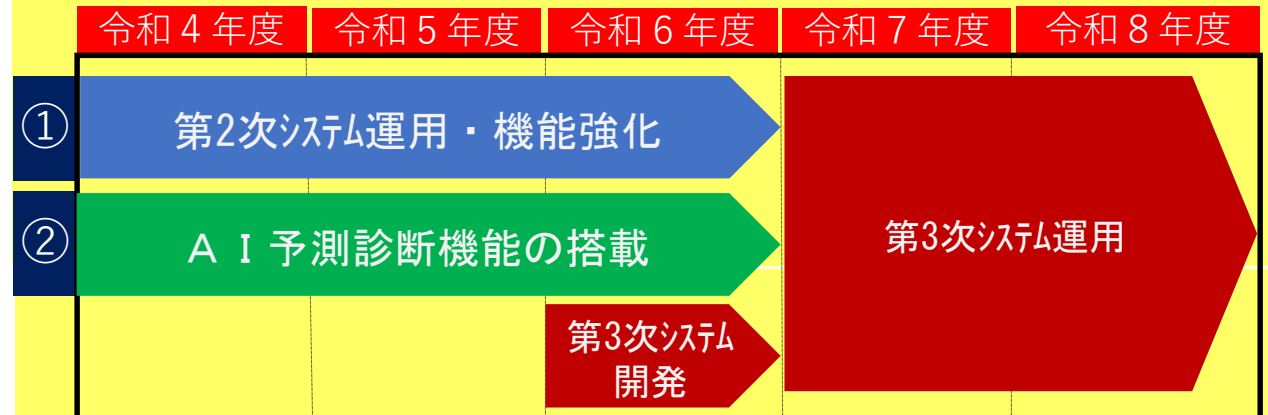
- ・ 救急隊の端末で傷病者情報を音声認識により迅速に文字化し、搬送先候補の医療機関端末に一斉送信・照会することで、搬送先を迅速に決定するほか、利用者の意見を踏まえて機能強化を図る。

②

【AI活用による予測診断の実施】

- ・ システムに入力した傷病者の情報を元に、AIが予測診断を行うことで、救急隊がより適切な搬送先医療機関を選定可能となり、救急業務の効率化に貢献

ロードマップ



取組みの方向性3 学びがスマート！

地域課題

Society5.0社会の進展
グローバル化の加速

多様な人々と協働しながら主体的
に考え、行動できる力の育成

子どもを取り巻く
環境の変化

多様な児童生徒に対応し、
すべての児童生徒の可能性を
引き出す学習環境の整備

目指す姿

学力状況の的確な把握

個別最適化された
学びの実現

先進技術を取り入れた
授業展開

多様な学習形態の
選択・工夫



- 科学的視点と教員の経験のベストミックス
- 個々の能力等に対応したオーダーメイド型教育
- 効果的・効率的な授業（わかる授業）の展開
- 学習のハイブリッド化（対面⇔オンライン等）



取組内容

- ① 【オンライン授業の展開（ゲストティーチャー等の活用）】
- ② 【意見・回答の即時共有を通じた効果的な協働学習】
- ③ 【指導者用デジタル教科書の整備】
- ④ 【児童生徒の状況のセンシング等による把握】
- ⑤ 【知識・技能の定着を支援する個別最適ドリル】
- ⑥ 【学習ログの蓄積・活用】

ロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①	試行実施	実施			
②	試行実施	実施			
③		検討・準備			実施
④		調査・研究			
⑤		調査・研究			
⑥		調査・研究			

地域課題

利用者数の減少、
利用者の固定化・高齢化

施設のICT環境整備

勤労者・子育て世代を中心と
した新たな利用者の発掘

新しい受講スタイルの
構築

目指す姿

いつでも、どこでも、誰もが必要な
時に必要な学びができる



取組内容

① 【オンラインによる生涯学習講座の実施】

② 【学習用動画の配信】



ロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①		一部実施・順次拡充			
②		一部実施・順次拡充			

地域課題

コロナ禍による
観覧者等の減少



アクセシビリティの向上

文化財の公開数拡充



知の拠点としての機能強化

少子高齢化の進行

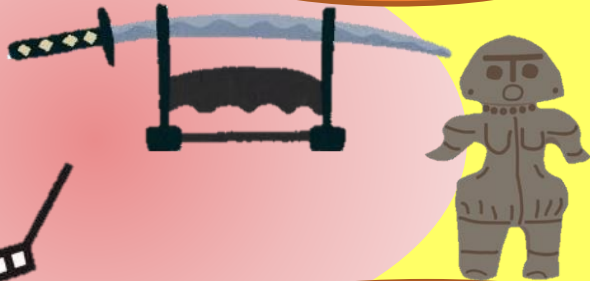


無形文化財の後継者育成や
郷土芸能の伝承支援

目指す姿

いつでもどこでも
文化財を鑑賞できる

豊富なコンテンツ
の提供



AI学芸員等による
知の提供

バーチャル上での無形
文化財体験の提供

取組内容

① 【デジタルミュージアムの整備、他都市との双方向利用等】

② 【文化財のデジタルアーカイブ化】

③ 【バーチャルコンテンツ等の制作】

ロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①	検討				整備着手
②	検討	方針策定・モデル実施			着手
③	検討・協議				制作着手

地域課題

窓口業務等の効率化

先進技術を活用した利便性の高いサービスの提供

新型コロナウイルス感染拡大

新たな生活様式に対応したサービスの提供

目指す姿

手続の簡素化

24時間
問合せが可能

インターネットによる
デジタル情報収集
(ポータル等)

いつでもどこでも
利用登録

来館せずに
本の貸出・返却

取組内容

- ① 【インターネットによる利用登録（電子申請）】
- ② 【自動貸出機・自動返却機の導入】
- ③ 【AIチャットボットの導入】
- ④ 【地域情報のデジタル化推進】
- ⑤ 【電子書籍の導入】

ロードマップ

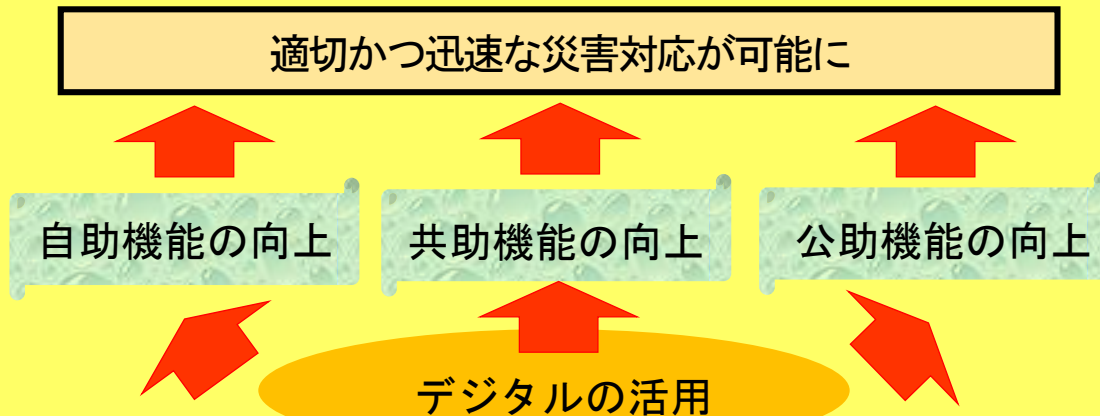
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①			実施		
②	検討			実施	
③		検討		実施	
④			実施		
⑤			実施		

取組みの方向性4 まちがスマート！

地域課題

- ① 地球温暖化の影響による気候や自然災害の多様化 → 避難指示等の発令に必要な情報の複雑化
- ② 少子高齢化の進行 → 地域の災害対応力が低下
- ③ 大規模災害発生時の職員不足懸念

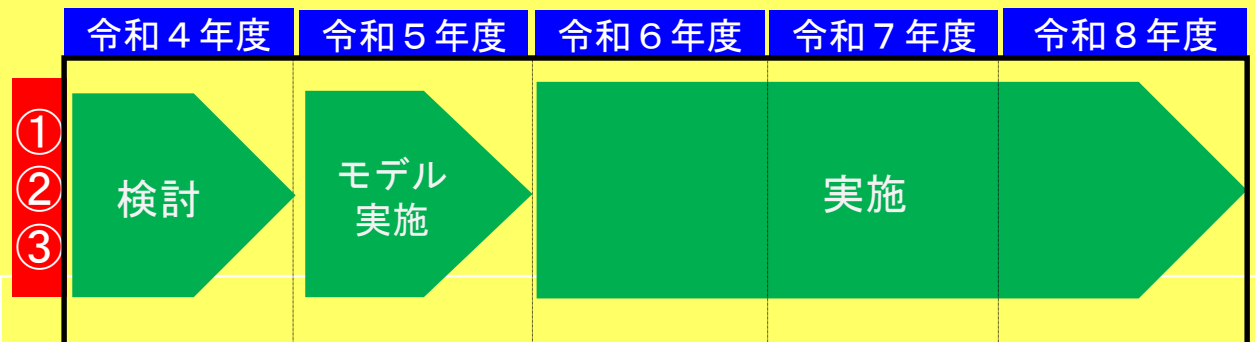
目指す姿



取組内容

- ① 避難指示等の発令に必要な情報をAIが分析し、自動的にかつ迅速な避難指示等を発令
- ② ○防災に関する教育やイベントをオンラインで開催し、一人ひとりの災害対応力を向上
○防災団体間のオンライン交流により、好事例を共有
- ③ ○職員の参集時間短縮を目的とする、AIを活用した災害対応職員の適正配置
○り災証明業務や避難所開設、被害報告作成等の自動化

ロードマップ



地域課題

- ・拠点間に一定の距離があり、住民・就業者・学生・来街者の回遊性が乏しい。
- ・海辺などの観光資源を十分に活用できておらず、国内外からの来街者は多いものの、エリア全体の賑わいが不足。

拠点間の移動負担を軽減し、回遊性の向上により賑わいを創出

目指す姿

エリア内のすべての人が拠点間をストレスなく行き来し、様々なサービスを容易に利用できる賑わいあふれるまちの実現

先端技術を活用した新たな移動手段の確保



幕張新都心版 MaaSの導入・実現

取組内容

①

- 【先端技術を活用したモビリティサービスの実現】
- ・「自動運転バスの運行」や「自動送迎・無人回収可能なパーソナルモビリティシェアリングサービス」の実現に向けて検討・実証等を実施。

②

- 【幕張新都心版MaaSによる付加価値のある快適な移動の実現】
- ・新たに実装するモビリティサービスや既存の交通サービスを1つのIDで利用可能な仕組みの構築。
 - ・モビリティサービスとエリア内の宿泊、観光、購買、医療サービス等を一体的に提供するサービスの検討・実施

ロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①	検討・実証	自動運転(レベル4)運行	自動運転(レベル4)運行	自動運転(レベル4)運行	路線等の拡充検討
	検討・実証	パーソナルモビリティシェアリングサービス提供(自動送迎・無人回収)	パーソナルモビリティシェアリングサービス提供(自動送迎・無人回収)	パーソナルモビリティシェアリングサービス提供(自動送迎・無人回収)	路線等の拡充検討
②	検討・実証	MaaS提供(複数モビリティの一体利用)	MaaS提供(複数モビリティの一体利用)	MaaS提供(複数モビリティの一体利用)	提供サービス拡大

地域課題

① 少子高齢化の進行 → 地域防犯力の低下

② 人口の減少 → 空き家・空地の増加

治安悪化
の懸念

目指す姿

カメラを活用した
犯罪の防止

AIによる犯罪発生予測、
情報提供

誰もが安心できるまち

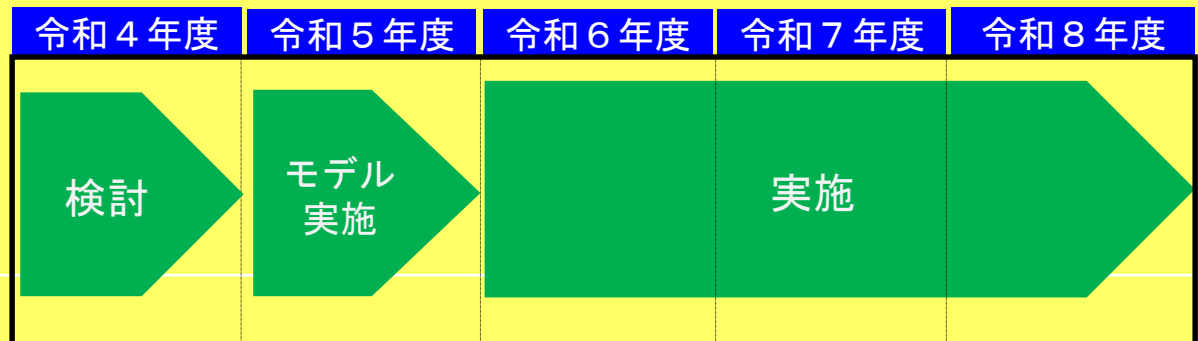


取組内容

- 犯罪や迷惑行為の抑止、子どもや高齢者等の見守りのため、カメラを設置
- カメラ映像や音声をAIが解析し、事故等の発生を迅速に関係機関に通報
- 市内の犯罪の発生状況をAIが分析し、発生しやすい犯罪の内容や状況、場所をプッシュ型で通知



ロードマップ



地域課題

二酸化炭素排出量の増加による気温上昇 → 豪雨や台風、猛暑など自然災害が激甚化・頻発化

国として、2050年カーボンニュートラルや脱炭素社会の実現を宣言

「千葉市気候危機行動宣言」を発出

目指す姿

再生可能エネルギーの促進

省エネルギーの促進

気候危機の意識の共有、行動変容

脱炭素社会の実現

取組内容

- ① 住宅やオフィスビルの省エネ化（ZEB、ZEH）促進
- ② EV等の次世代自動車の普及促進
- ③ 市外で発電された再エネ電力を市有施設で活用
- ④ SNSやマスメディアを活用した普及促進



ロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①	実施				
②					
③	検討		モデル実施	実施	
④	実施				

地域課題

入園者数の減少

展示内容の陳腐化

施設の老朽化

「種の保存」・「調査研究」・
「教育」・「レジャー」の4つの
領域におけるプレゼン向上

公園機能の高度化

目指す姿

テクノロジーを活用した
動物等に関する学術的向上

知的欲求の連鎖を起こす
仕掛けの構築等

公園環境の整備

新たな顧客体験の創出と
来園者サービスの向上

経営改善とマーケティング
施策の実施

○来園者の「驚きと感動」
「癒しと憩い」の実現

○「学び」の場としての
高度化・発展

○経営体質の強化



取組内容

- ① 【リモート環境等を活用した新たな教育コンテンツの開発】
- ② 【AIを活用した動物生態の見える化による生態検証と新たな観覧スタイルの構築等】
- ③ 【AIを活用した来園状況の把握・分析によるマーケティング等】
- ④ 【自動運転技術を使った新たなZOOトリップの開発】
- ⑤ 【IoTを活用した動物エンリッチメントの構築】
- ⑥ 【再生可能エネルギー利用による居心地のよい環境の提供】

ロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①	検討・実証・実施				
②	検討・実証・実施				
③	検討・実証・実施				
④	検討・実証・実施				
⑤	検討・実証・実施				
⑥	検討・実証・実施				

地域課題

- ・ 道路・上下水道施設などの安全点検の高コスト化や技術者不足、老朽化の進行に伴う点検日数の増加
- ・ 気候変動に伴う局地的な大雨や暴風雨の発生頻度の上昇に伴う災害の激甚化のおそれ（道路・橋梁・河川等の安全確保）

インフラへの先端技術の活用により

- ・ 維持管理の高度化・省力化・省人化
- ・ 事前検知による安全対策の強化

取組内容

①

【安全点検におけるドローンやA Iの活用】

- ・ 明らかに目視確認が必要なインフラを除き、ドローンが撮影した画像をA Iが解析し、その結果を踏まえて修繕を判断するなど、省力化・省人化を実現。

②

【センサーやカメラの活用による安全対策の強化】

- ・ 平時や災害時におけるインフラの状況を監視し、被害の最小化や迅速な市民周知を図るため、必要性の高いインフラから順次センサーや監視カメラを設置するとともに、A Iの併用により異常や危険を自動検知するなど、安全対策を強化。

目指す姿

時代の潮流に合わせたインフラ維持管理の最適化による生産性の向上・安全なまちづくりの実現

センサー・カメラとA Iを組み合わせ、インフラの異常や危険を自動検知

ドローンやA I（画像解析技術等）の活用によるインフラの維持管理



ロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①	検討・実証・実施				
②	検討・実証・実施				

取組みの方向性5 市役所がスマート！

地域課題

- 市民が市役所に合わせなければならない。
 - ・市役所の指定する場所と時間でなければ手続きができない。
 - ・窓口での丁寧な説明等のサービスを希望する市民は、窓口で待たなければならない。
 - ・窓口での説明が不要な市民でも、窓口に行かなければならない。
 - ・申請書の様式がばらばらで不親切

目指す姿

いつでも、どこからでも
できる行政手続

親切で分かりやすく、
一度で済む申請様式

ICT活用による多様な
相談手法への対応



- ・行かなくていい
- ・待たなくていい
- ・使いやすい
市役所

絵

取組内容

①

- 【いつでも・どこからでも・簡単にできる行政手続】
 - ・従来の窓口に加え、オンラインでも申請ができる手続を拡大し、市民や事業者がいつでも、どこからでも様々な手続ができる環境整備を進める。
 - ・市民や事業者にとって親切で分かりやすい申請様式を準備し、デジタル処理を前提とした、一度で、簡単に手続が行える環境整備を進める。

②

- 【市役所に行かなくても相談等が可能に】
 - ・デジタル技術を活用し、市役所に出向くことなく、市民や事業者と市との様々な相談等が可能となる環境整備を進める。

ロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①	申請様式の順次検討、オンライン申請の運用・拡大				
②	運用・拡大				

地域課題

- ・ 忙しくて時間がない方が予防接種や健診の申請を忘れてしまう
- ・ 制度を知らなかったことにより、制度利用の機会を逃してしまう
- ・ 制度について検索したり、問い合わせることが負担



・ 対象者が自ら調べなくても、受給機会を逸することのない仕組みづくり

取組内容

①

【一人ひとりのニーズに合ったサービスの提供】

- ・ 市民が受給できる行政サービスについて、受給対象となる可能性のある方に対し、個別にお知らせするサービスを提供する。
- ・ 対象制度を拡充し、通知から申請、給付までを切れ目なく完了できるなど、更なる利便性の向上を目指す。

②

【手続の負担なく受けられる行政サービスの提供】

- ・ 申請等の手続の負担なく、行政サービスを提供する仕組みについて検討を進める。

目指す姿

一人ひとりの
ニーズに合わせた
情報の提供

手続の負担なく
行政サービスを提供



受給漏れがなく、簡
単に行政サービス
を受けられる状態



ロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①	通知対象サービスの拡充等の検討・実施				
②	検討・可能なものから一部実施				

地域課題

- ・ 今後、人口減少により人材確保が困難になっていくとともに、税収減が見込まれるなか、市民ニーズは多様化・高度化している。
- ・ 一方で、大量の事務処理を迅速に処理することができなければ、行政サービスの提供に支障が生じるおそれがある。

取組内容

【業務への先端技術の活用】

- ・ RPA等の活用による自動化が可能な定型業務やAI等の活用による半自動化が可能な非定型業務について、コスト比較等を行った上で、導入を推進。
- ・ 導入に当たっては、予め業務プロセスの再構築を行い、人的資源を最適化。

目指す姿

先端技術の活用により
業務を効率化

職員が付加価値の高い
業務に専念し、市民の
ニーズに対応



- ・ より市民に寄り添った行政サービスが可能となる。
- ・ 市民の利便性が向上する。

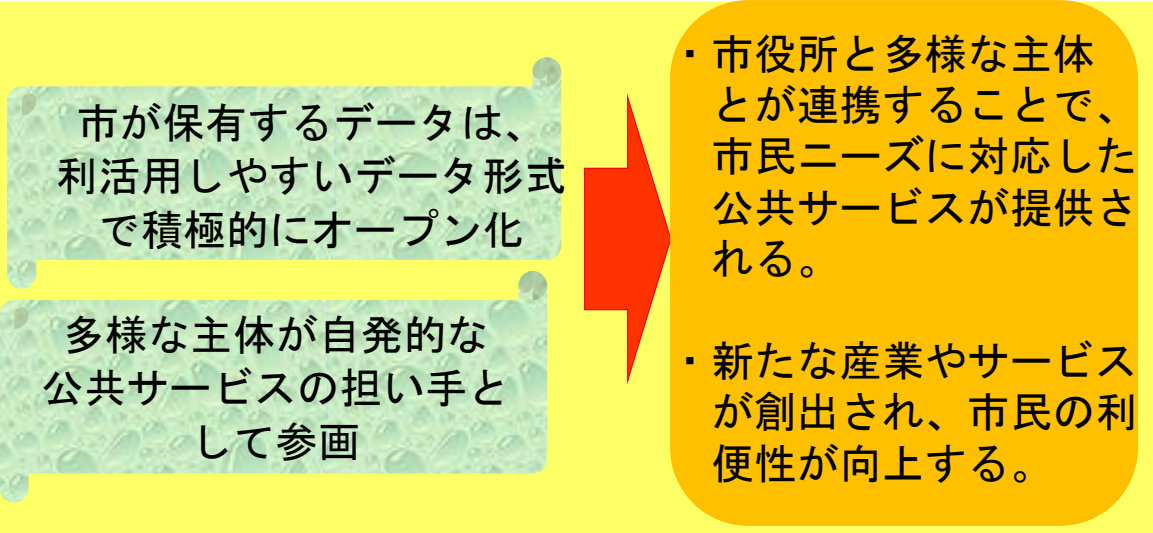
ロードマップ

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
<div style="background-color: #008000; color: white; padding: 10px; display: inline-block; border-radius: 10px;"> 検討・可能なものから随時実施 </div>				

地域課題

- ・ 複雑化する社会において、市民ニーズは多様化・高度化し、行政だけでは対応が困難な状況に変化
- ・ 地域課題の解決には、多様な主体の参画が不可欠であり、更なる協力体制の構築が必要である。
- ・ 市が公開するデータのファイル形式等が利活用に適しておらず、多様な主体による利活用が進んでいない。
- ・ 多様な主体が必要とする市保有データが公開されていない。

目指す姿



取組内容

- ① 【市保有データのオープン化の推進】
 - ・ 市が保有する情報を積極的に公開し、そのままでは、公開できない情報についても適切な加工をした上での公開を検討することにより、データ利活用を促進する。
 - ・ データ利活用に適したファイル形式や標準的なフォーマット使用を検討し、推進する。
- ② 【シビックテック団体等との連携】
 - ・ シビックテック団体や企業、他の地方公共団体等との連携により、オープンデータの具体的な活用策を検討し、活用事例を増やす。


ロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①	検討・可能なものから随時実施				
②	連携・推進				


地域課題

- ① 生産年齢人口の減少 → 運転員等の確保が困難
- ② プラスチックや小型家電の定期回収 → 回収業務の非効率化
- ③ 広大な再生資源物堆積場への立入調査
- ④ 相次ぐごみの不法投棄

目指す姿



テクノロジーを活用し、美しいまちづくりを効率良く実現



取組内容

- ① ICTを活用したごみ収集の実施
- ② 回収ボックスにセンサーを設置し、最適なタイミングで回収を実施し、業務を効率化
- ③ 堆積量を記録するカメラや騒音を測定するセンサーを搭載したドローンにより、人手を補完
- ④ 不法投棄事例をデータベース化 → AIによる発生予測 → 発生予測箇所の重点的な警戒

ロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
①	検討				
②	検討		モデル実施		実施
③	検討		モデル実施		実施
④	検討		モデル実施		実施